

「北総線の運賃値下げ」 10万人署名を

パフォーマンスで無意味という

「月刊千葉ニュータウン」紙に

質 問 状



署名簿を積み、谷垣大臣（右端）に要請する北実会・吉田会長（左端）

私たち「北総線の運賃値下げを実現する会」は、8月26日、住民・利用者の皆様からよせられた、107,087名の署名をたずさえ、超党派の地元の国会議員、県会議員、2市2村の首長、議会議長に同行をねがって、谷垣 国土交通大臣と面会、署名をとどけ、沿線住民の切実な願いをつたえました。

この陳情のもようは、多くの新聞、ケーブルTV、各自治体の広報紙などで報道されましたが、この地域で無料配布されている「月刊千葉ニュータウン」（9月13日付）は、この署名運動を「過剰なパフォーマンス」とし、ご署名くださった皆様の一筆の重みを否定しました。生活に直結した運賃問題解決の運動に、住民が参加し、意思を表明する行為を「無意味」とからかう宣伝を無視することはできません。

私たちは同紙発行元にたいして、裏面の「質問状」で説明を求めています。

平成 20 年 9 月 19 日

質 問 状

月刊千葉ニュータウン 殿

北総線の運賃値下げを実現する会
会長 吉 田 治 男

8 月 26 日の超党派での国土交通省への陳情では、谷垣大臣から「運賃がほかの鉄道とくらべて高いことは聞いているし、皆さんの不満はもっともだ。運賃は透明・公正なものにしなければならない。おかしなことにならないよう、それぞれ協力していきたい」という言葉をいただきました。

責任をとる大臣の発言であり、運賃値下げに向けて国も積極的にかかわっていくという姿勢を表明されたものと解釈できます。これは 10 万筆を越す署名に結集した住民の声と、行政・超党派の議員による一致協力した要請行動のたまものであると考えています。

しかし、貴紙の記事は、切実な願いをこめた署名を否定しました。

当会では署名にご協力いただいた方々にかわって、貴紙に抗議し、以下の 3 点の質問をします。回答は、この質問状の全文とともに、早急に貴紙に掲載することを求めます。

1. 運賃値下げには実務的協議が必要なのは当然ですが、その背景には世論の後押しがなければ無力です。しかし、貴紙は、「10 万集まろうが、20 万集まろうが影響ない」としています。署名に効果がないという理由を説明してください。
2. 貴紙は、当会が 2 市 2 村の行政に協力をあおぎ、自治会・町内会に署名協力の要請をしたことに疑問を投げかけていますが、署名は、それぞれの団体が自主的に判断し行っていたものです。また、あたかも「効率的に簡単に」署名集めをしたように書かれていますが、どのような取材によってこのような表現となったのか説明してください。
3. 貴紙は、超党派での陳情について「なぜ、この人たちがここにいるのか、誰もわからないままセレモニーは進められ……」と書いています。運賃問題を国政・県政の場でも取り上げていただけるよう、当会が各党に同行を要請したもので、貴紙が「なぜこの人たちがここにいるのか」わからなかったなら、なぜ取材をしなかったのか説明してください。

以上、3 点につき、回答を求めます。

以上